消費者庁
Consumer Affairs Agency, Government of Japan

News Release

平成 31 年3月6日

放射性物質をテーマとした食品安全に関する
インターネット意識調査

消費者庁では、福島県を含めた被災地産物等に関する消費者の意識について、平成 25 年2月から半年ごとに調査を継続的に実施し、意識変化を追跡しています。この調査は、震災後から時系列に傾向を確認できる唯一といってよい調査である一方、震災から8年を経過しようとしている現在では、消費者の現状を把握しきれない項目などがあるとの指摘も頂いてきました。

そのため、より効果的なリスクコミュニケーションの方法を検討するための資料として、現行の意識調査の回答背景にある理由及び食品安全全般に対する考え方を調査し、対象とすべき消費者の現状を明らかにし、どのような集団をターゲットに、何をすべきか、消費者の属性等に応じた情報提供やコミュニケーション方法を探る調査を新たに実施しました。

本調査結果は、継続して行っている全国各地でのリスクコミュニケーションを始め、各種の施策等に活用していく予定です。

本件に関する問合せ先
消費者庁消費者安全課
担当者:石川、比留間
代表:03-3507-8800
直通:03-3507-9280
FAX：03-3507-9290
Mail ： g.anzenshoku@caa.go.jp
URL ：https://www.caa.go.jp

放射性物質をテーマとした食品安全に関するインターネット意識調査

平成 31 年３月６日
消費者安全課

１．調査目的

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、多くの国民に不安を与え、食品についても、科学的知見に基づき放射性物質に関する基準値が設定され、合理的な検査体制の下、安全が確保されているにもかかわらず、被災県産農作物を中心に買い控える等の消費行動が見られる状態であった。

このため、消費者庁は、平成 25 年度から「風評被害に関する消費者意識の実態調査」を継続的に実施してきたが、震災から８年を経過しようとしている現在では、消費者の買い控え行動は、事故直後の放射性物質への不安を理由とするものから変化している可能性も考えられた。

そこで本調査は、「風評被害に関する消費者意識の実態調査」では確認しきれない消費者の食品安全に関する意識の現状を把握し、消費者の属性等に応じた情報提供やコミュニケーション方法を探って、「風評被害に関する消費者意識の実態調査」と併せてより効果的なリスクコミュニケーションの方法を検討するための資料とすることを目的に実施することとした。

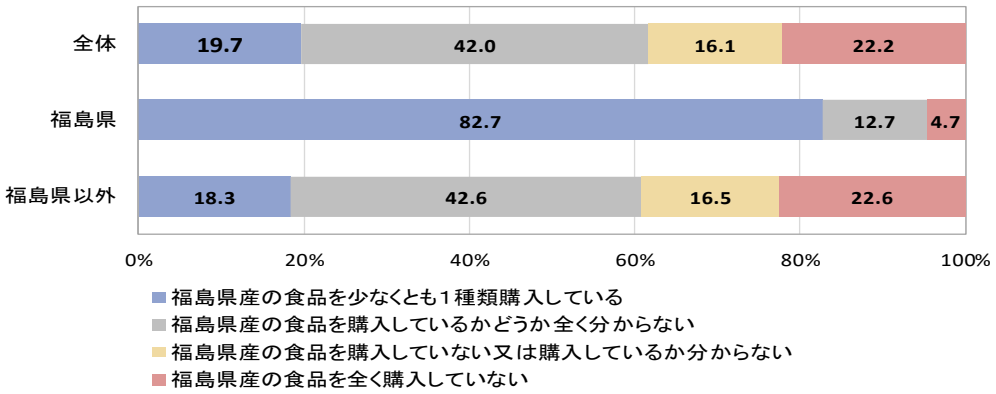
２．調査概要

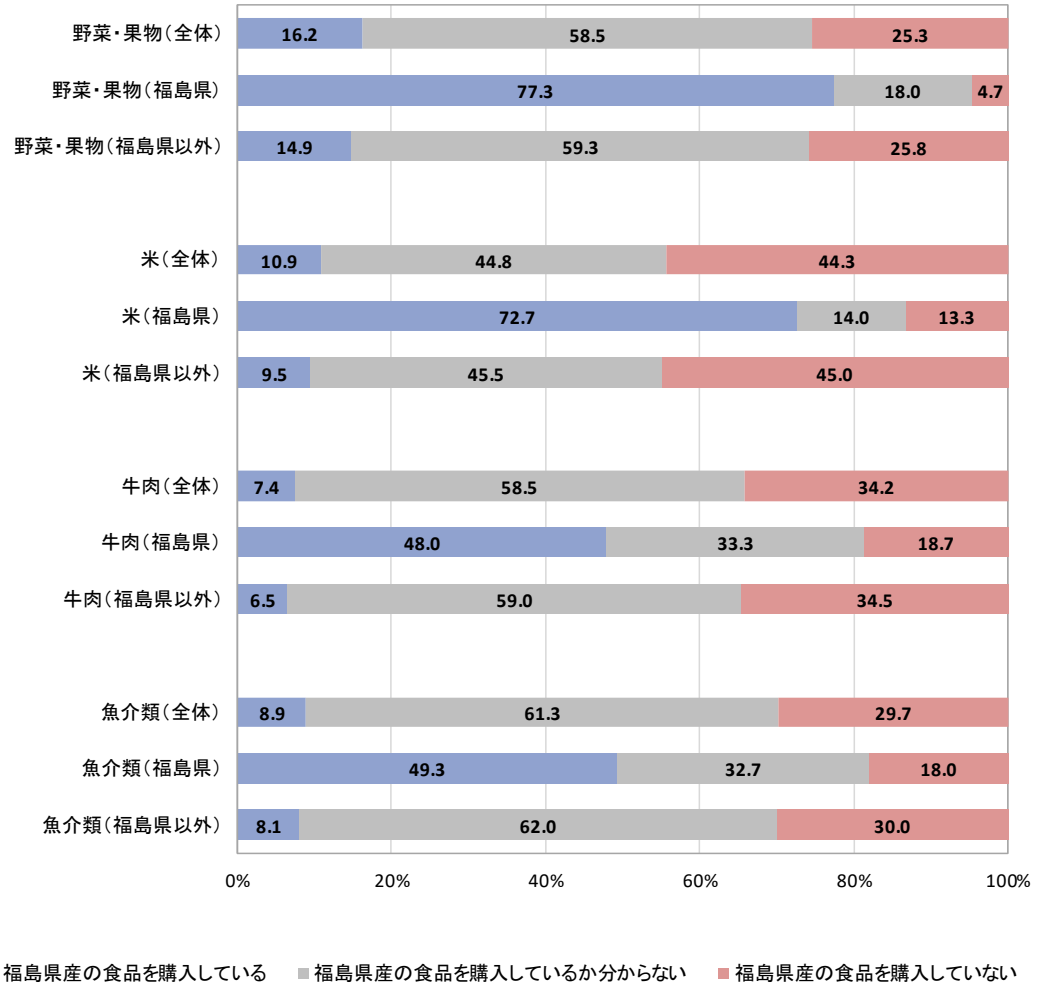
（１）調査方法：インターネット調査
（２）実施期間：平成 31 年１月 29 日（火）～２月４日（月）
（３）調査対象：全国 47 都道府県
各都道府県 150 人
（20～60 代（５区分）の男女（２区分）各区分 15 人）（全回答者数 7,050 人）

３．調査結果

（１）消費者の食品選択の実態について

Ｑ１　あなたは福島県産の食品を購入していますか。それぞれ当てはまるものを一つお選びください〔回答者数：（全体）7,050 人、（福島県在住者：以下「福島県」とする）150 人、（福島県以外在住者：以下「福島県以外」とする）6,900 人〕。





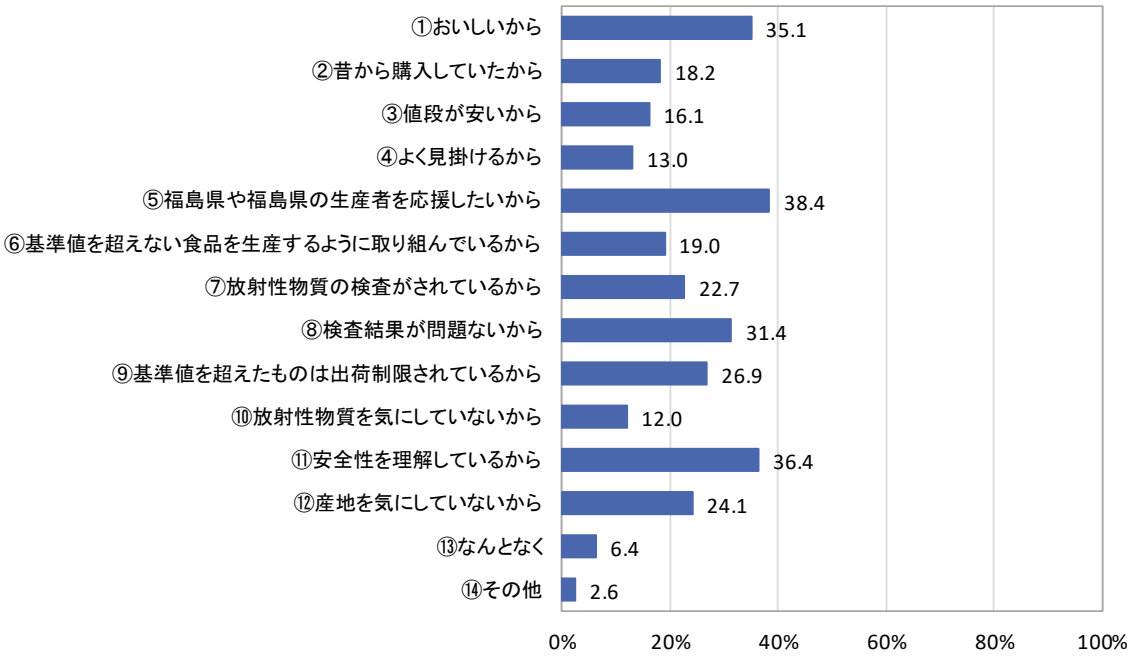
福島県産の食品を購入しているかどうかについて食品４種類（「野菜・果物」、「米」、「牛肉」、「魚介類」）それぞれについて質問した。福島県産の食品４種類のうち、少なくとも１種類について、「購入している」と回答した者は約 20%であり（福島県では約 80%）、種類全てについて「購入していない」と回答した者も約 20%（福島県で約 5%）であった。

それぞれの種類ごとに、購入しているかどうかについての結果は、「野菜・果物」、「米」、「牛肉」、「魚介類」のいずれにおいても「分からない」との回答が最多で、「米」で約 45%、それ以外では約 60%であった。

種類別に見ると、「購入している」との回答は、「野菜・果物」16.2%、「米」10.9%、「牛肉」7.4%、「魚介類」8.9%となり、種類ごとに購買の状況が異なっていた。

福島県に限ると、どの種類でも福島県産の食品を「購入している」との回答が多く、「野菜・果物」77.3%、「米」72.7%、「牛肉」48.0%、「魚介類」49.3%となり、福島県以外の傾向とは異なった。福島県で、福島県産の食品を「購入していない」との回答は、最も少ないのは「野菜・果物」4.7%であり、最も多いのは「牛肉」18.7%であった。

Ｑ２　福島県産の食品を購入している方にお伺いします。福島県産の食品を購入しているのはなぜですか。当てはまるものをお選びください（複数回答）（回答者数：1,389 人）。

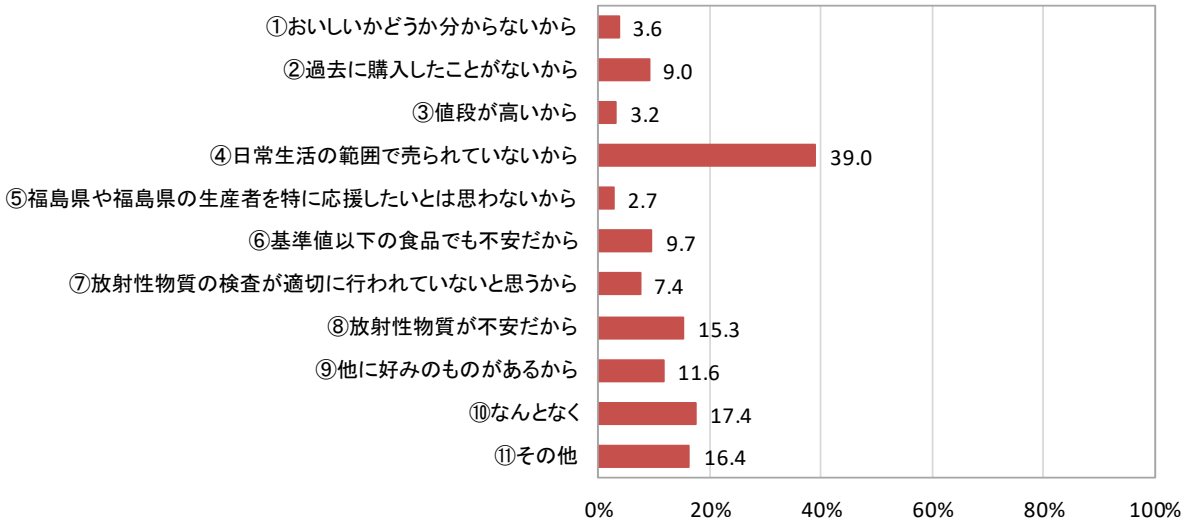


Ｑ１の食品４種類のうち、いずれか一つでも「福島県産の食品を購入している」と回答した 1,389 人（全体の 19.7%）に対して理由を問うと、「⑤福島県や福島県の生産者を応援したいから」が最多で約 40%（全体に換算すると約８%）、次いで「⑪安全性を理解しているから」と、「①おいしいから」が、約 35%（全体に換算すると約７%）であった。

食品中の放射性物質に対する安全確保の具体的な事柄を理由にしている「⑥基準値を超えない食品を生産するように取り組んでいるから」、「⑦放射性物質の検査がされているか

ら」、「⑧検査結果が問題ないから」、「⑨基準値を超えたものは出荷制限されているから」については、⑧が最も多く約 30%（全体に換算すると６%）、⑥が最も少なく約 20%（全体に換算すると約４%）であった。

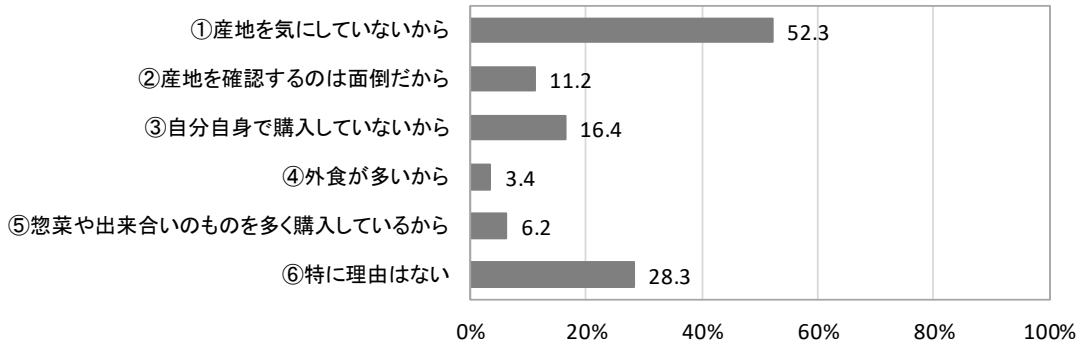
Ｑ３　福島県産の食品を購入していない方にお伺いします。福島県産の食品を購入していないのはなぜですか。当てはまるものをお選びください（複数回答）（回答者数：3,388 人）。



Ｑ１の食品４種類のうち、いずれか一つでも「福島県産の食品を購入していない」と回答した 3,388 人（全体の 48.1%）に対して理由を問うと、「④日常生活の範囲で売られていないから」が最多で約 40%（全体に換算すると約 20%）、次いで「⑩なんとなく」は約 15%（全体に換算すると約８%）であった。

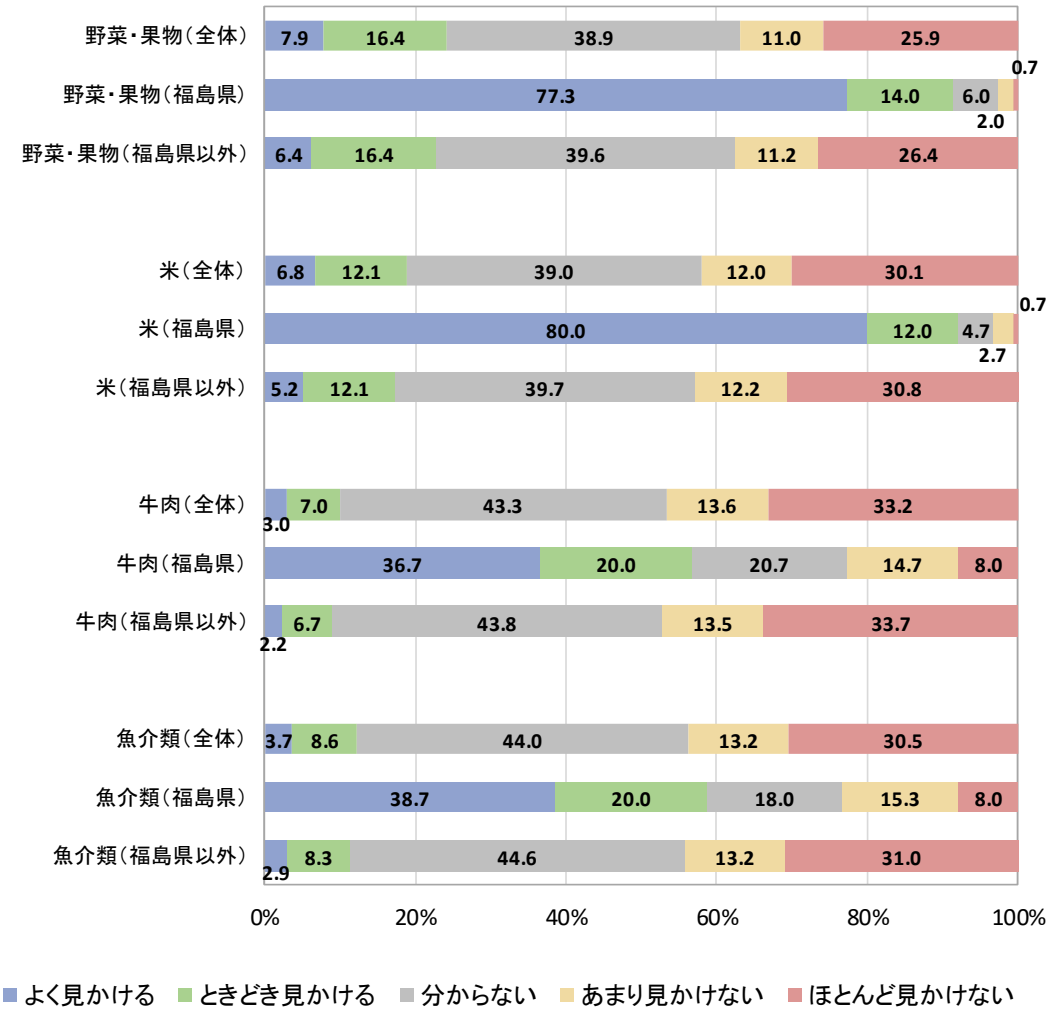
「⑧放射性物質が不安だから」も約 15%（全体に換算すると約７%）であった。食品中の放射性物質に対する安全確保の取組への具体的な不信感を示す「⑥基準値以下の食品でも不安だから」、「⑦放射性物質の検査が適切に行われていないと思うから」はともに 10%（全体に換算すると５%）以下であった。

Ｑ４　福島県産の食品を購入しているか分からない方にお伺いします。福島県産の食品を購入しているか分からないのはなぜですか。当てはまるものをお選びください（複数回答）（回答者数：4,695 人）。



Ｑ１の食品４種類のうち、いずれか一つでも「福島県産の食品を購入しているか分からない」と回答した 4,695 人（全体の 66.6%）に対して理由を問うと、「①産地を気にしていないから」が最多で約 52%（全体に換算すると約 35%）、次いで「⑥特に理由はない」が約 30%（全体に換算すると約 20%）であった。

Ｑ５　あなたは日常の生活範囲で、福島県産の食品を見掛けますか。それぞれ最も近いものを一つ選んでください〔回答者数：（全体）7,050 人、（福島県）150 人、（福島県以外）6,900 人〕。



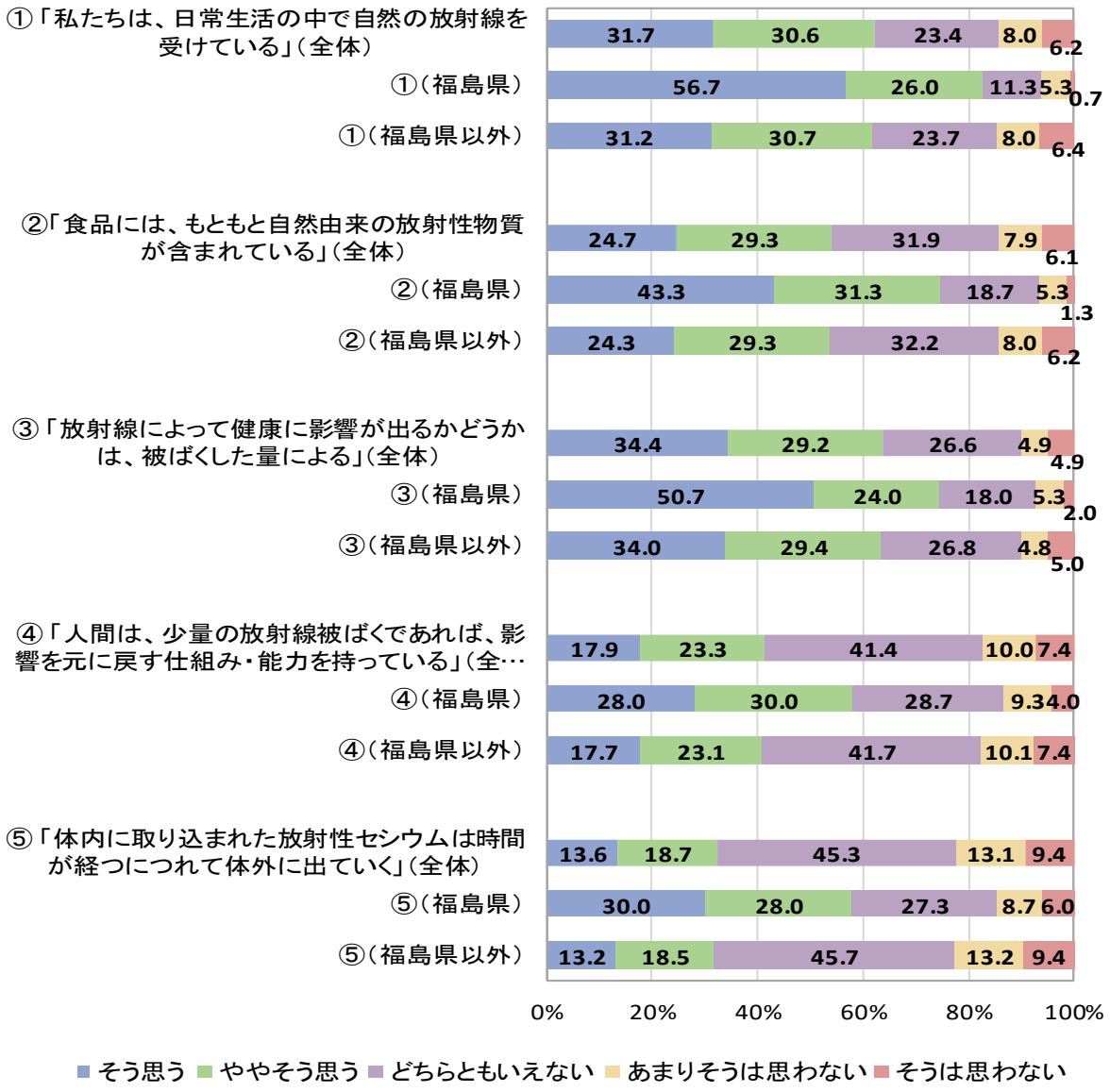
福島県産の食品を日常の生活範囲で見掛けるかどうかは、「野菜・果物」、「米」、「牛肉」、「魚介類」いずれにおいても、「分からない」との回答が 40%前後であった。「あまり見かけない」、「ほとんど見かけない」については「野菜・果物」（30%台）に比べて「米」、「牛肉」、「魚介類」（40%台）が高かった。

「よく見かける」、「ときどき見かける」との回答を合わせると、「野菜・果物」、「米」でも 25%以下、「牛肉」、「魚介類」は 15%以下であった。

福島県に限ると、「よく見かける」、「ときどき見かける」との回答を合わせて、「野菜・果物」、「米」いずれにおいても 90%以上、「牛肉」、「魚介類」は 60%以下となった。「牛肉」、「魚介類」は、福島県でも「ほとんど見かけない」、「あまり見かけない」との回答を合わせると 20%以上であった。

（２）消費者の放射線に関する意識について

Ｑ６　あなたは次のようなことについてどのように思っていますか。それぞれ最も近いものを一つ選んでください〔回答者数：（全体）7,050 人、（福島県）150 人、（福島県以外）6,900 人〕。

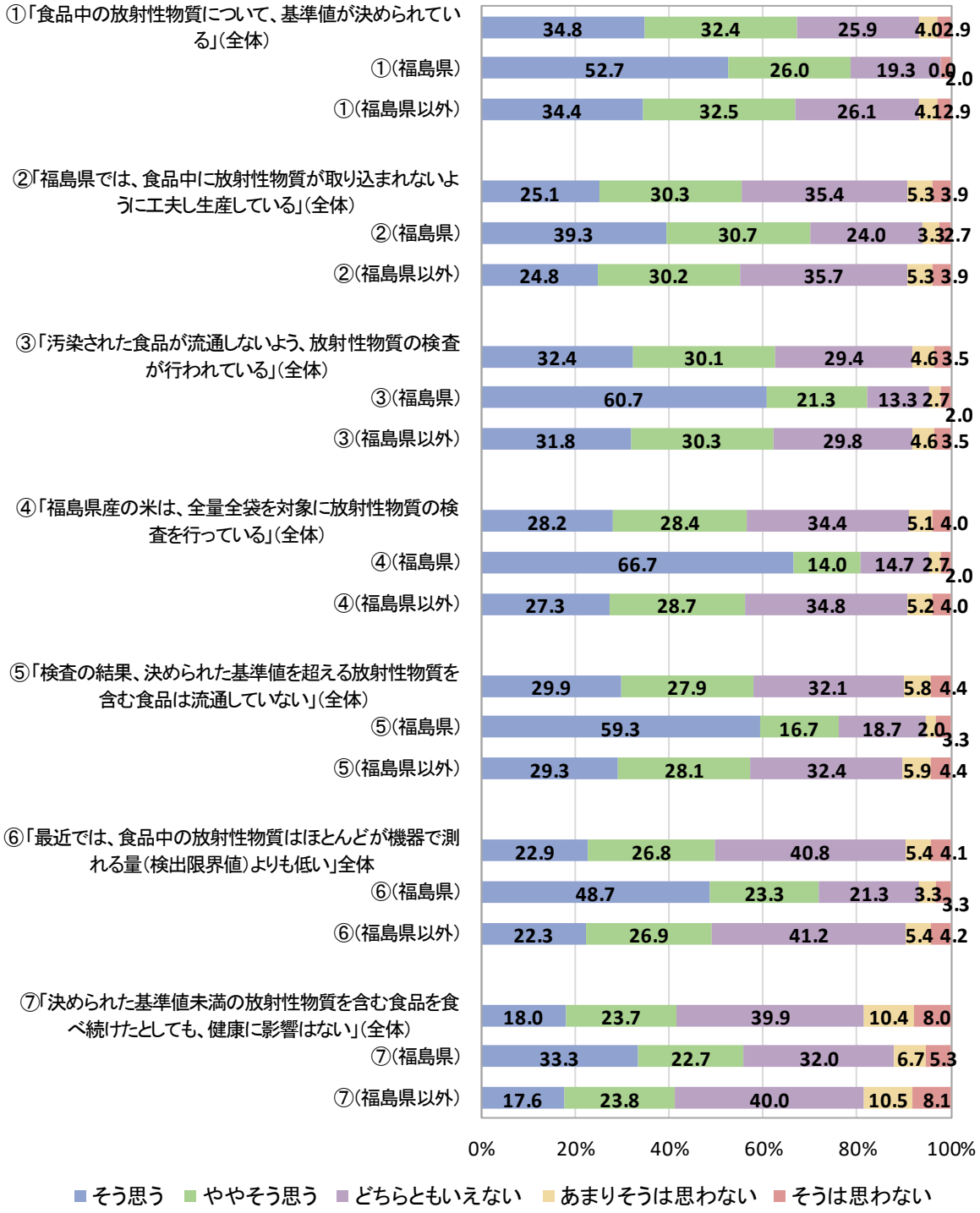


「①私たちは、日常生活の中で自然の放射線を受けている」については、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせた割合が 60%を超え、「②食品には、もともと自然由来の放射性物質が含まれている」については、50%以上が「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した。「③放射線によって健康に影響が出るかどうかは、被ばくした量による」については 60%以上が「そう思う」又は「ややそう思う」と回答している。

「④人間は、少量の放射線被ばくであれば影響を元に戻す仕組み・能力を持っている」や「⑤体内に取り込まれた放射性セシウムは時間が経つにつれて体外に出て行く」については、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせるとそれぞれ、④が約 40%、⑤が約 30%となった。

同様の傾向は福島県でも見られるが、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせた割合が、各項目約①85%、②75%、③75%、④60%、⑤60%といずれも、福島県以外よりも多くなった。

Ｑ７　あなたは次のようなことについてどのように思っていますか。それぞれ最も近いものを一つ選んでください〔回答者数：（全体）7,050 人、（福島県）150 人、（福島県以外）6,900 人〕。



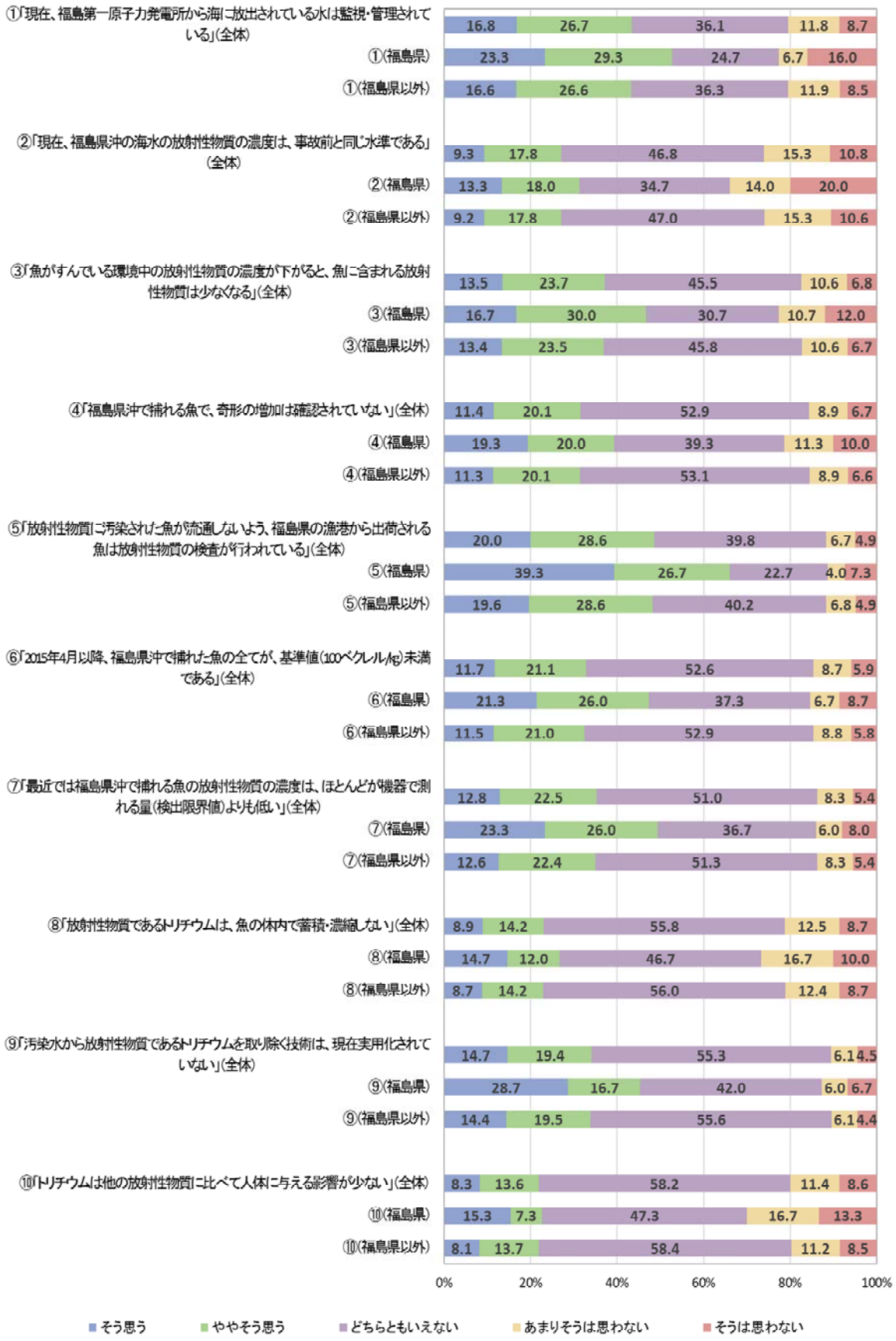
食品中の放射性物質に対する安全確保の取組について、「①食品中の放射性物質について、基準値が決められている」について「そう思う」、「ややそう思う」との回答を合わせると60％を超えたが、「⑦決められた基準値未満の放射性物質を含む食品を食べ続けたとしても、健康に影響はない」については「そう思う」、「ややそう思う」との回答を合わせて40％程度であった。

②③④⑤の生産対策や検査、出荷制限の流れについては、「そう思う」、「ややそう思う」との回答を合わせると、60％程度であった。

「⑥最近では、食品中の放射性物質はほとんどが機器で測れる量（検出限界値）よりも低い」について「そう思う」、「ややそう思う」との回答を合わせると 50％程度であり、①の基準値や②③④⑤のような生産対策や検査、出荷制限と比較するとやや少なかった。

福島県は、「⑦決められた基準値未満の放射性物質を含む食品を食べ続けたとしても、健康に影響はない」（「そう思う」、「ややそう思う」との回答を合わせて 56.0％）を除き、「そう思う」、「ややそう思う」との回答を合わせると、いずれの項目も 70％以上となった。

Ｑ８　あなたは次のようなことについてどのように思っていますか。選択肢の中から最も近いものを一つ選んでください〔回答者数：（全体）7,050 人、（福島県）150 人、（福島県以外）6,900 人〕。


①「現在、福島第一原子力発電所から海に放出されている水は監視・管理されている」(全体) 16.8 26.7 36.1 11.8 8.7
①(福島県) 23.3 29.3 24.7 6.7 16.0
①(福島県以外) 16.6 26.6 36.3 11.9 8.5
②「現在、福島県沖の海水の放射性物質の濃度は、事故前と同じ水準である」(全体) 9.3 17.8 46.8 15.3 10.8
②(福島県) 13.3 18.0 34.7 14.0 20.0
②(福島県以外) 9.2 17.8 47.0 15.3 10.6
③「魚がすんでいる環境中の放射性物質の濃度が下がると、魚に含まれる放射性物質は少なくなる」(全体) 13.5 23.7 45.5 10.6 6.8
③(福島県) 16.7 30.0 30.7 10.7 12.0
③(福島県以外) 13.4 23.5 45.8 10.6 6.7
④「福島県沖で捕れる魚で、奇形の増加は確認されていない」(全体) 11.4 20.1 52.9 8.9 6.7
④(福島県) 19.3 20.0 39.3 11.3 10.0
④(福島県以外) 11.3 20.1 53.1 8.9 6.6
⑤「放射性物質に汚染された魚が流通しないよう、福島県の漁港から出荷される魚は放射性物質の検査が行われている」(全体) 20.0 28.6 39.8 6.7 4.9
⑤(福島県) 39.3 26.7 22.7 4.0 7.3
⑤(福島県以外) 19.6 28.6 40.2 6.8 4.9
⑥「2015年4月以降、福島県沖で捕れた魚の全てが、基準値(100ベクレル/kg)未満である」(全体) 11.7 21.1 52.6 8.7 5.9
⑥(福島県) 21.3 26.0 37.3 6.7 8.7
⑥(福島県以外) 11.5 21.0 52.9 8.8 5.8
⑦「最近では福島県沖で捕れる魚の放射性物質の濃度は、ほとんどが機器で測れる量(検出限界値)よりも低い」(全体) 12.8 22.5 51.0 8.3 5.4
⑦(福島県) 23.3 26.0 36.7 6.0 8.0
⑦(福島県以外) 12.6 22.4 51.3 8.3 5.4
⑧「放射性物質であるトリチウムは、魚の体内で蓄積・濃縮しない」(全体) 8.9 14.2 55.8 12.5 8.7
⑧(福島県) 14.7 12.0 46.7 16.7 10.0
⑧(福島県以外) 8.7 14.2 56.0 12.4 8.7
⑨「汚染水から放射性物質であるトリチウムを取り除く技術は、現在実用化されていない」(全体) 14.7 19.4 55.3 6.1 4.5
⑨(福島県) 28.7 16.7 42.0 6.0 6.7
⑨(福島県以外) 14.4 19.5 55.6 6.1 4.4
⑩「トリチウムは他の放射性物質に比べて人体に与える影響が少ない」(全体) 8.3 13.6 58.2 11.4 8.6
⑩(福島県) 15.3 7.3 47.3 16.7 13.3
⑩(福島県以外) 8.1 13.7 58.4 11.2 8.5
0% 20% 40% 60% 80% 100%
そう思う
ややそう思う
どちらともいえない
あまりそうは思わない
そうは思わない

福島県沖の海水、魚、汚染水等について、最も理解されているのは、「⑤放射性物質に汚染された魚が流通しないよう、福島県の漁港から出荷される魚は放射性物質の検査が行われている」であり、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせて約 50%であった。次いで、「①現在、福島第一原子力発電所から海に放出されている水は監視・管理されている」の約 45%である。

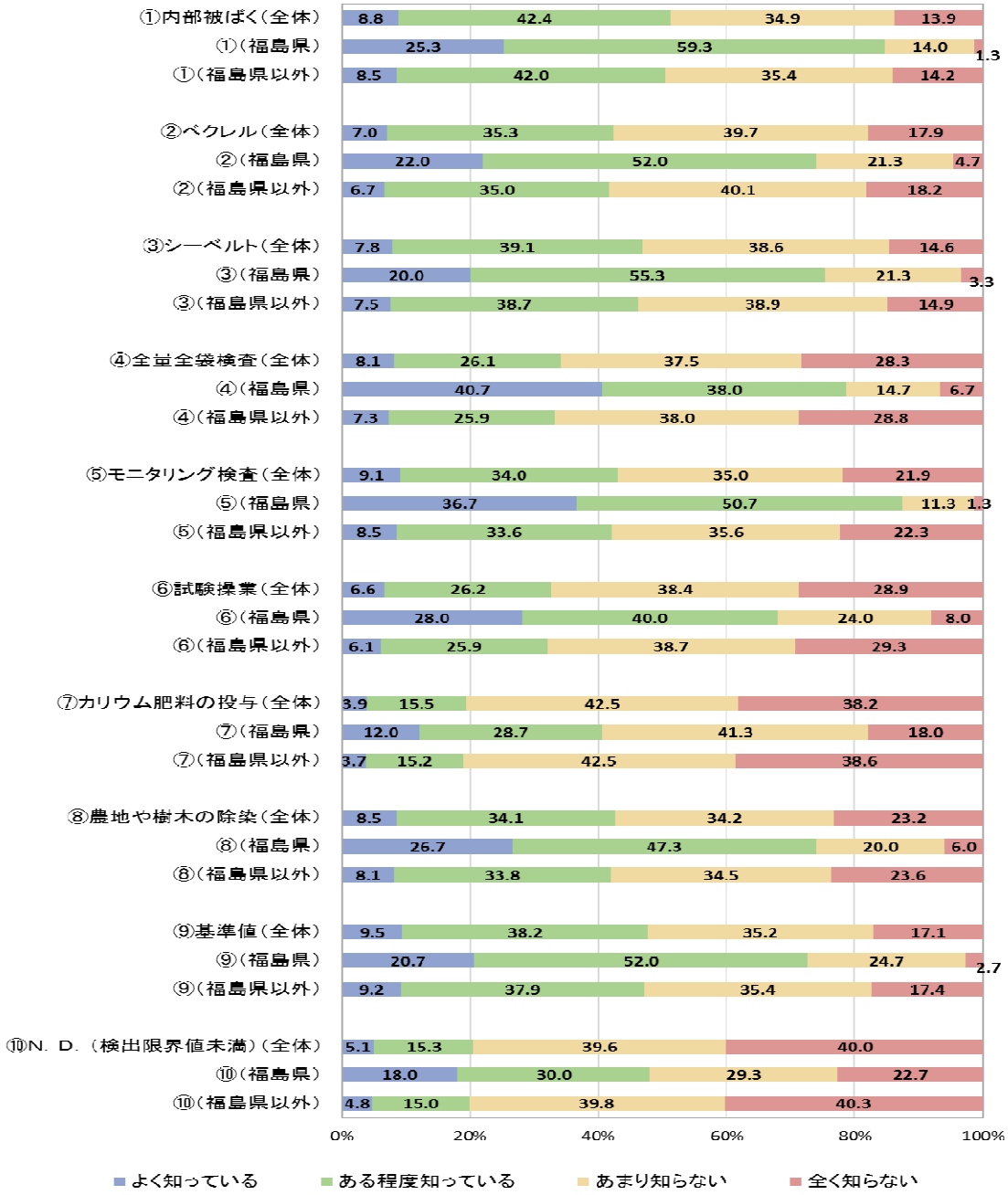
また、「⑦最近では福島県沖で捕れる魚の放射性物質の濃度は、ほとんどが機器で測れる量（検出限界値）よりも低い」、「⑥2015 年４月以降、福島県沖で捕れた魚の全てが、基準値（100 ベクレル/kg）未満である」については、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせて約 35%である。

一方、「②現在、福島県沖の海水の放射性物質の濃度は、事故前と同じ水準である」、「⑧放射性物質であるトリチウムは、魚の体内で蓄積・濃縮しない」、「⑩トリチウムは他の放射性物質に比べて人体に与える影響が少ない」については、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせ 20～25%程度と低い水準となっている。

どの設問についても、福島県では「そう思う」、「ややそう思う」を合わせた回答割合が福島県以外に比べて多くなっているが、「②現在、福島県沖の海水の放射性物質の濃度は、事故前と同じ水準である」、「⑧放射性物質であるトリチウムは、魚の体内で蓄積・濃縮しない」、「⑩トリチウムは他の放射性物質に比べて人体に与える影響が少ない」については、福島県と福島県以外の差が小さかった。

（３）消費者の放射線に関する知識について

Ｑ９　あなたは次の各用語を知っていますか。最も近いものを一つ選んでください（お答えはそれぞれ１つ）回答者数：［（全体）7,050 人、（福島県）150 人、（福島県以外）6,900 人］。



放射線に関する語句の理解については、「①内部被ばく」、「②ベクレル」、「③シーベルト」「⑤モニタリング検査」、「⑧農地や樹木の除染」、「⑨基準値」のような一般的な語句は、「よく知っている」、「ある程度知っている」との回答を合わせると、いずれも 40～50％程度となった。

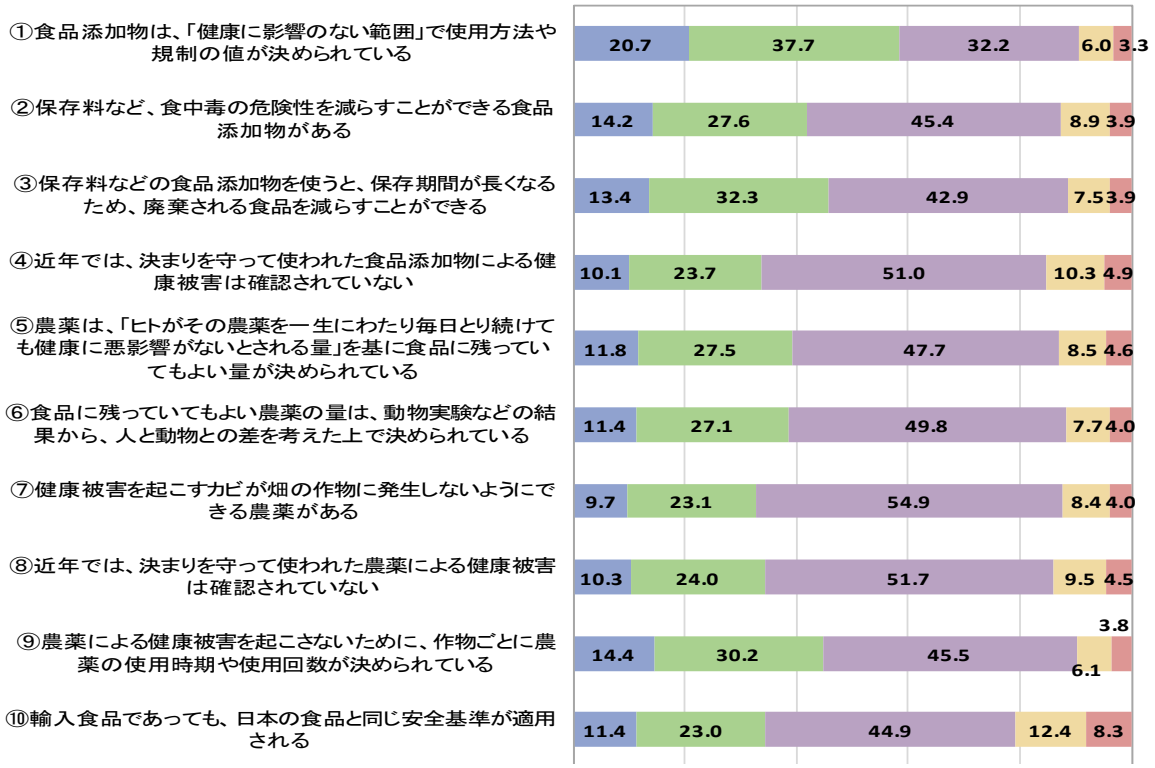
一方、「④全量全袋検査」、「⑥試験操業」、「⑦カリウム肥料の投与」、「⑩Ｎ．Ｄ．（検出限界値未満）」については、「よく知っている」、「ある程度知っている」との回答を合わせ

ても 35%以下になった。

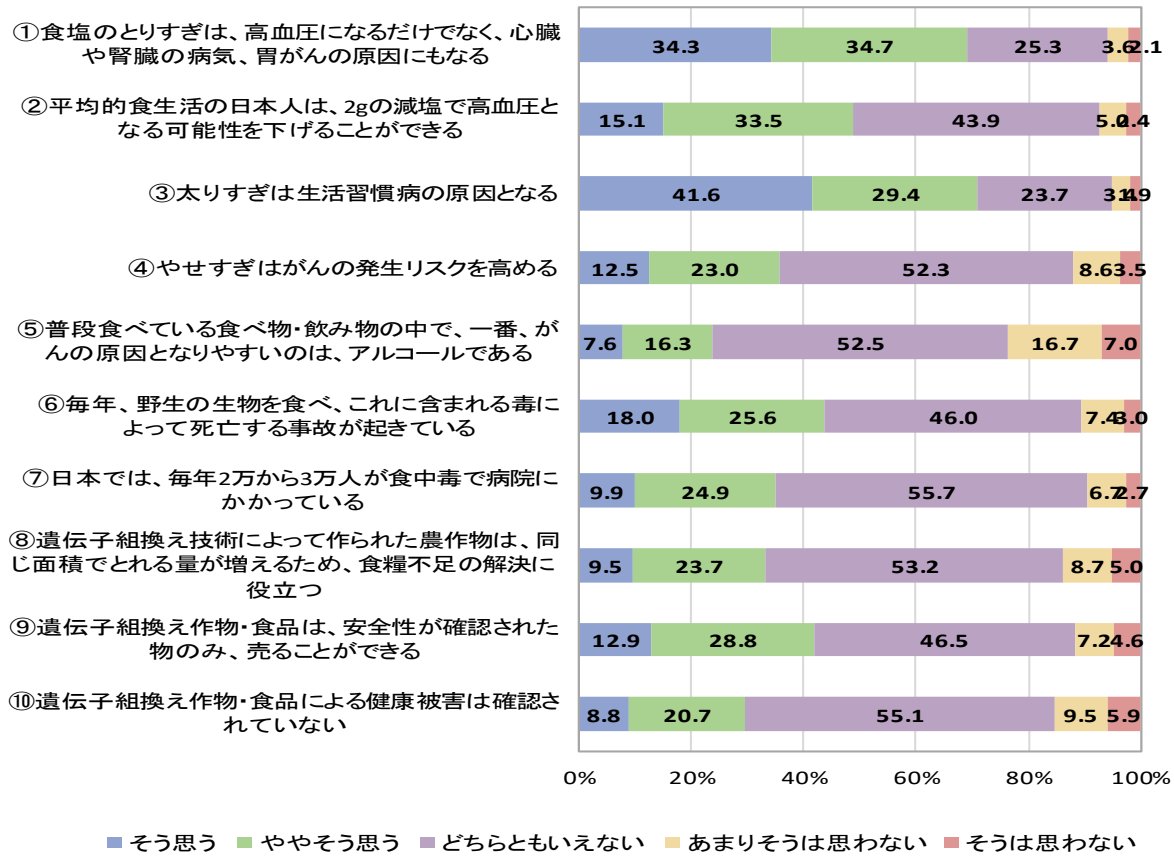
（4）消費者の食品安全に対する考え方について

Q10、Q11　あなたは食品の安全性についてどのように思っていますか。それぞれあなたの考えに最も近いものを一つ選んでください（回答者数：7,050 人）。

Q10



Q11



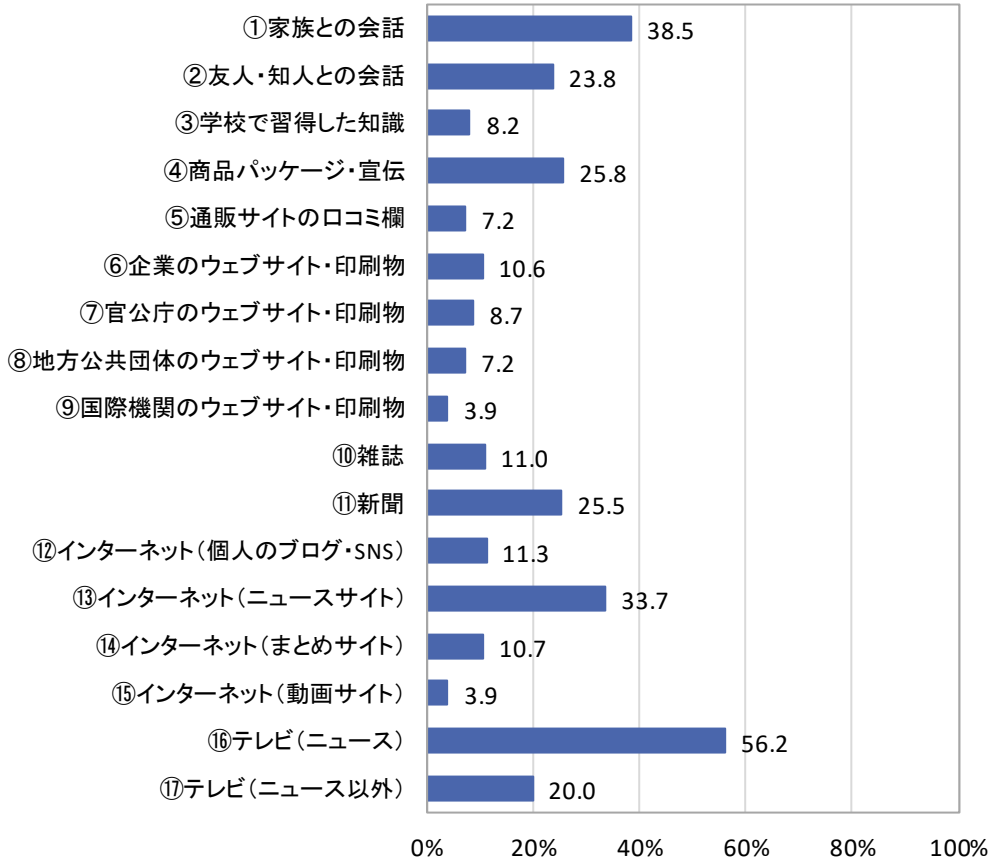
食品添加物（Q10 の①～④）、農薬（Q10 の⑤～⑨）、輸入食品（Q10 の⑩）、遺伝子組換え作物・食品（Q11 の⑧～⑩）と、食品による健康被害の要因（Q11 の①～⑦）について事実を示す質問したところ、「そう思う」、「ややそう思う」の合計が多かったのは、Q11 の「①食塩のとりすぎは、高血圧になるだけでなく、心臓や腎臓の病気、胃がんの原因にもなる」、Q11 の「③太りすぎは生活習慣病の原因となる」で、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせて約 70%であった。

次いで「そう思う」、「ややそう思う」の合計が多かったのは Q10 の「①食品添加物は、「健康に影響のない範囲」で使用方法や規制の値が決められている」で「そう思う」、「ややそう思う」を合わせて約 60%であった。

一方、「そう思う」、「ややそう思う」の合計が最も少なかったのは Q11 の「⑤普段食べている食べ物・飲み物の中で、一番、がんの原因となりやすいのは、アルコールである」の約 25%であった。

それ以外の項目について、農薬、輸入食品、遺伝子組換え作物・食品の規制（Q10 の⑤、⑥、⑨、⑩、Q11 の⑨）、食品添加物、農薬、遺伝子組換え作物・食品のメリット（Q10 の②、③、⑦、Q11 の⑧）、食品添加物、農薬、遺伝子組換え作物・食品による健康被害がないこと（Q10 の④、⑧、Q11 の⑩）、野生生物による死亡事故、食中毒の患者数（Q11 の⑥、⑦）は 30%～45%程度が「そう思う」、「ややそう思う」と答えている。

Q12　普段あなたが食品の安全性について参考にしている情報源は何ですか（お答えはいくつでも）（回答者数 7,050 人）。



普段、食品の安全性について参考にしている情報源について質問したところ、情報源として最も参考としているものは、「⑯テレビ（ニュース）」が約 55%であった。次いで「①家族との会話」が約 40%、「⑬インターネット（ニュースサイト）」が約 35%で、以下「②友人・知人との会話」、「④商品パッケージ・宣伝」、「⑪新聞」がそれぞれ、およそ 25%となった。

（以上）